

# Ⅲ 社内外の評価及びご意見

## 第12回 九州電力環境顧問会

2012年11月22日に「第12回九州電力環境顧問会」を開催し、当社の環境への取組みについて、様々なご意見をいただきました。環境顧問会での主なご意見とその対応方針についてご紹介します。

### 九州電力環境顧問会委員 (50音順、敬称略)



あさの なおひと  
**浅野 直人**  
福岡大学法学部教授、  
中央環境審議会委員



おおつか まさお  
**大塚 政雄**  
環境省環境カウンセラー  
(市民部門)



かど ひさよし  
**門 久義**  
鹿児島大学副学長、鹿児島大学  
大学院理工学研究科教授



つつい やすひこ  
**筒井 泰彦**  
エッセイスト



つる た さとし  
**鶴田 暁**  
九州地域環境・  
リサイクル産業交流プラザ会長



なが た こと  
**詠田 トキ子**  
NPO法人  
みやざきエコの会理事長



にしだ しんいち  
**西田 進一**  
西田鉄工株式会社  
代表取締役社長



のむら みきお  
**野村 美紀生**  
株式会社テレビ西日本  
専務取締役



ふじもと のぼる  
**藤本 登**  
長崎大学教育学部教授



会議風景

(注)門委員、藤本委員は都合によりご欠席されたため、別途ご意見をいただきました(顔写真には第11回(2011年11月)のものを使用)。ご所属は2012年11月時点で記載しています。なお、藤本委員は2013年3月31日をもって九州電力環境顧問会委員をご退任されています。

用語集を  
ご覧ください

- 九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ
- 地球温暖化
- エネルギーセキュリティ
- CSR (企業の社会的責任)

### [ご意見の概要と対応方針]

ご意見の概要	対応方針
<p><b>【原子力の安全対策】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●絶対に安全な機械・装置は無く、致命的な事故を如何に防ぐかが重要であり、原子力に対してもこの考え方で対応すべきではないか。</li> <li>●国益や地球温暖化対策等の総合的な観点からも、原子力の安全確保を着実に進めていってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●原子力発電所の安全上重要な機器についても、故障することを考慮し、複数台設置するなど幾重もの安全対策を取ることが国の指針で定められています。原子力発電所の建設等の際には、この指針に基づいた適切な対応を行い、安全が確保されていることを国が安全審査において確認することになっています。</li> <li>●原子力発電は、安全の確保を大前提として、エネルギーセキュリティや地球温暖化対策の面から今後も重要な電源であることに変わりはないものと考えており、「福島のような事故は絶対に起こさない」という固い決意のもと安全対策を実施してきました。現在、原子力規制委員会による再稼働に向けた安全審査が行われているところです。</li> <li>●原子力発電所における安全対策に関する情報については、当社CSR報告書・CSRダイジェスト(<a href="http://www.kyuden.co.jp/csr_report_index">http://www.kyuden.co.jp/csr_report_index</a>)、当社ホームページ(<a href="http://www.kyuden.co.jp/">http://www.kyuden.co.jp/</a>)やパンフレット(<a href="http://www.kyuden.co.jp/company_pamphlet_book_nuclear_index">http://www.kyuden.co.jp/company_pamphlet_book_nuclear_index</a>)で詳しく紹介しています。</li> </ul>

ご意見の概要	対応方針
<p><b>【自然放射線に対する理解促進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般の人の多くは、放射線が原子力発電所からしか発生しないと誤解している恐れがあるため、自然界に存在している放射線に対する理解促進を図るべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りにある放射線や日常生活で受ける放射線他を、社員が社外の皆さまに説明する際のツールとして、2013年4月に、パンフレット「わたしたちの環境とくらしのために 知っておきたい放射線・放射能」を作成しています（お問い合わせ先：地域共生本部 エネルギー広報グループ 電話092-761-3031（代））。また、電気事業連合会のホームページでも、「放射能と放射線」や「日常生活と放射線」など、放射線に関連する情報を紹介しています（<a href="http://www.fepc.or.jp/nuclear/houshasen/index.html">http://www.fepc.or.jp/nuclear/houshasen/index.html</a>）。</li> </ul>
<p><b>【環境負荷増大に対する説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原子力利用率が大きく低下する中、CO<sub>2</sub>排出原単位の悪化は、もはや電力会社の努力だけではカバーできない状況。その背景や状況等についてはレポート等を通じて積極的に説明し、環境負荷が増大していることに対する社会の認識を高めていくべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災以降は、原子力発電所の停止による火力発電量の増大により、2012年度のCO<sub>2</sub>排出量は、大幅な増加となりました。本レポートでは、その背景や取組状況を詳しく紹介しています（P11）。</li> </ul>
<p><b>【再生可能エネルギーに関する説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>風力・太陽光については、設備容量（kW）ではなく利用率（kWh）での評価が必要であり、それらの課題についてもきちんと説明していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本レポートにおいても、引き続き風力・太陽光の導入にあたっての課題を記載しています（P14）。また、当社ホームページ（<a href="http://www.kyuden.co.jp/">http://www.kyuden.co.jp/</a>）では、風力・太陽光発電は、日照時間など自然状況により、その出力が大きく変動する旨をご理解いただくために、発電状況のリアルタイムデータを公開しています。</li> </ul>
<p><b>【省エネ・省資源活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>九州電力のオフィスでの電力使用量の削減実績については、消費者や他企業の参考となり得るので、具体的な取組内容を積極的に紹介すべきではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本レポートでは、当社事務所におけるオフィス電力量の削減実績と節電・省エネへの取組状況を記載するとともに、社員の家庭における取組みについても記載しています（P17～19）。</li> </ul>
<p><b>【生物多様性への取組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境アクションレポートにおける生物多様性に関する記載が不十分。九州電力が生物多様性保全のために地域社会と協働で取り組めることは多いと思うので、今後もより充実した取組みを期待している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境活動の多くは生物多様性への取組みに関係していることから、本レポートでは、当社の取組みを「電気事業における生物多様性行動指針」との関係で整理し紹介しています（P43～44）。今後も、2012年9月に閣議決定された「生物多様性国家戦略2012-2020」の趣旨を尊重しつつ、生物多様性の保全と持続可能な利用への取組みを継続していきます。</li> </ul>
<p><b>【環境アクションレポート】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境アクションレポートには、読者に知ってもらいたいことを分かりやすく伝える工夫が必要。その上では、読者が何を知りたいのかを分析する必要はある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度の環境アクションレポートでは、読者アンケートにおいて、「新たに記載すべき内容」や「不要と思われる内容」についてお聴きしましたが、環境に関する特段のご意見はありませんでした。電気料金制度や経営状況などの項目を記載すべきとの声を頂きましたが、これらについては、料金制度や経営状況については、当社ホームページ（<a href="http://www.kyuden.co.jp/">http://www.kyuden.co.jp/</a>）やCSR報告書（<a href="http://www.kyuden.co.jp/csr_report_index">http://www.kyuden.co.jp/csr_report_index</a>）等で詳しく紹介しています。引き続き、読者アンケート等を通じて、当社の環境活動に対するステークホルダーの皆さまの声やニーズの把握に努めていきます。</li> </ul>
<p><b>【環境活動方針】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境活動方針（2012レポート8ページ）について、「社会との協調」と「地域環境の保全」を、地域への対応関連として一つにまとめ、これに再生可能エネルギーや節電への取組み等を含めてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境活動方針において、「社会との協調」は、主に地域の皆さまとの協働による環境活動を、「地域環境の保全」は当社設備における環境調和・保全対策等を対象としてそれぞれ整理しており、再生可能エネルギーや節電への取組みは低炭素社会に向けた取組みとして「地球環境問題への取組み」に含めています。</li> </ul>

用語集を  
ご覧ください

- 放射線
- 放射能
- 原子力利用率
- 再生可能エネルギー
- 生物多様性
- ステークホルダー
- 低炭素社会
- 地球環境問題